

県独自かんきつ新品種「夕焼け姫」



夕焼け姫の摘果をする児童たち＝東海市加木屋町で

児童らが摘果体験 東海

県独自のかんきつ新品種「夕焼け姫」の栽培に取り組んでいる東海市船島小学校の四年生五十七人が二日、学校近くにある同市加木屋町の市の栽培試験ほ場で、摘果や草取りを体験した。

(福本英司)

農家でつくる市マルチ栽

培夕焼け姫管理会の荒谷芳

興会長や加古博之副会長、

市果樹振興会の坂野五十鈴

会長が講師を務めた。荒谷

会長らは「摘果は、養分が

実に集まりすぎて苗木が成

長しなくなるのを防ぐため

に実を取る作業」などと説

明した。

児童たちは三月に苗木植

えを体験したが、まだ木が

小さく実がならないため、

今回の摘果は管理会が一年

前に植えて育った木を使っ

た。児童たちは、直径一センチ

ほどの緑色の実を手でもぎ

取り、周囲の草取りもした。